

事業の背景・目的

ニホンイヌワシは、生息環境の悪化等による繁殖成功率の低下が指摘されている等、その個体群の安定的な存続が危ぶまれる状況にある。そこで、繁殖地における保護対策の強化と併せて適切な施設において飼育、繁殖を行い、繁殖技術の確立に努めるとともに、飼育下での個体群の維持を図る。令和元年度はニホンイヌワシの飼育繁殖実績のある園へ職員を派遣し、飼育繁殖技術を習得するとともに、雌個体を導入し、既に飼育を開始している雄個体とのペアリングによる繁殖を目指すことを目的とした。

事業の内容

ア 飼育繁殖技術整備事業

イヌワシの飼育繁殖技術を導入するため、イヌワシの飼育繁殖実績のある園へ職員を派遣し、視察及び研修を実施する。

得られた成果

- ・秋田市大森山動物園に当園の飼育担当者2名、獣医師2名を派遣した。
- ・飼育担当者は3日間の研修を通じてニホンイヌワシの飼育繁殖に必要な知識と技能を習得した。
- ・獣医師は3日間の研修を通じてニホンイヌワシの健康管理に必要な知識と技能を習得した。

令和2年度の見通し

平成30年度に導入したオス個体との繁殖目的で、令和元年11月にメス個体を東京都多摩動物公園から導入したが、同年12月にアスペルギルス症により死亡した。現在当園で飼育しているニホンイヌワシはオス1羽のみであるため、日本動物園水族館協会を通じて当園へ搬出可能なメス個体の情報収集を行っており、新たな個体が導入された場合は繁殖に向けたペアリングを再度行う。

また、ニホンイヌワシの飼育繁殖技術を確立するため、ニホンイヌワシの飼育繁殖実績のある園から講師を招いて職員研修を実施する。

